



市民の声を市政に反映

杉森ひろゆき

市議会議員ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行
826号 2020年10月13日
 〒300-1235 牛久市刈谷町1-41-8
 Tel・Fax：870-0335
 携帯：090-5587-7693
 Mail：sugimori@max.hi-ho.ne.jp

新型コロナウイルス感染症対策

給食費の一部免除を

9月定例会一般質問 ②-B

杉森議員は6月8日、牛久市議会6月定例会で、新型コロナウイルス感染症対策について、①市の独自施策、②子育て支援施策、③若者支援施策、④雇用支援としての市職員の緊急臨時募集、の面から一般質問しました。今号では②のBを掲載します。

広範な子育て世帯に支援

【杉森議員の質問】給食費は小中学校平均して月約4,500円、児童生徒数約7,000人で、3,150万円、すでに就学援助などで無償化している分を引けば、新たに必要な金額は約3,000万円です。

2ヶ月無償化で6,000万円です。

広範な子育て世帯全体に支援の手を差し伸べる上で、給食費の一部免除を含む支援について、改めて執行部の見解を求めます。

夏休みの臨時登校で無償化

【教育委員会次長の答弁】新型コロナウイルス感染症拡大に伴い学校の臨時休業が実施されたことにより、その間、就学援助世帯では昼食代の支出が新たな家計の負担となっていることが推測されます。

そこで、就学援助世帯に対し4・5月の臨時休業中につきましては、給食費が発生していないにもかかわらず給食費相当を援助費に加えて支給いたしました。

また、今年度については臨時休業で遅れている授業時間を確保するため、7月下旬から8月にかけて、一部夏休みを削減し授業を一行いました。このことにより例年であれば発生しない給食提供が必要となり、新たに生じる保護者



牛久小のかぼちやサラダ

負担を軽減するため、7月下旬から8月末までの通常夏休みとなる期間中の給食費は、全児童生徒を対象に無償化し公費負担としたところです。

今後、給食費については就学援助制度の中で経済的困窮世帯に対して引き続き支援してまいりますとともに、制度の受付は随時行ってまいりますのでご理解のほどお願いします。

冬場に給食費一部無償化を

【杉森議員の質問】全児童生徒を対象に、7月下旬から8月末までの通常夏休みとなる期間中の給食費を無償化したとのこと、大いに評価するものです。

同時に、これから冬場に掛けて、コロナ感染の第3波発生の予測もあり、さらに約600万人の休業者の相当数が失業者になる可能性も指摘されています。市民の生活はさらに厳しくなる可能性があります。冬場に向けて、新たに全児童生徒を対象にした給食費の一部無償化を検討されるよう是非希望します。

大失業時代の到来か

新たに失業者が265万人、失業率は戦後最悪の6%台——。野村総合研究所の木内登英エグゼクティブ・エコノミストは、そんな衝撃的なシナリオが今後、現実になり得ると警鐘を鳴らす。厚生労働省の調査によると、コロナに関する解雇や雇い止め（見込みを含む）が7月3日時点で3万2000人超に上ることが明らかになっている。だが、いま表面化している危機は、まだ序章にすぎない。（ダイヤモンドOL）

大坂なおみ選手の「抗議」に 日系社会が共鳴する理由

樋口博子・ロス在住コラムニスト

米国社会のリアル

米国の警察によってこれでもかと続く黒人への暴力や差別に対し、女子テニス・世界ランキング9位の大坂なおみさんが声を上げました。



全米オープンテニスで勝ち上がる大坂なおみ選手。マスクには、警官による暴力の犠牲となった黒人男性の名前が書かれている=2020年9月8日

大坂さんは8月末、米ウィスコンシン州で起きた警官による黒人男性銃撃事件を受け、出場していた世界大会の準決勝を「プレーしない」と表明。「私はアスリートである前に一人の黒人女性」として抗議の意思を示しました。

これは、警官による黒人男性への拘束死事件(5/25)を機に世界に広まった**ブラック・ライブズ・マター (BLM、黒人の命は大事だ)**運動にも連なる行動です。

この行動に米国では、スポーツ界やセレブ、そして一般の人々の間でも「勇敢」「誇り」などと称賛する声が続いています。一方、日本では「無責任」「日本国籍ならBLMに賛同するな」など、嘲笑や非難を伴う反応もツイッター上で流れ、意識のズレを感じます。

「どうでもいい命」のように

米国勢調査局によると**黒人は人口の12%**。白人(62%)やヒスパニック(17%)と比べ少数ですが、**黒人が警官に射殺されるケースは100万人当たり白人の3倍**です。銃を保持していないときに警官から射殺されるケースも、全ての人種の中で黒人が最も多いのです。ここ7年間で警官が殺害したケースの99%は刑事責任が問われておらず、アカウントビリティー(説明責任)もありません。

まるで黒人の命は「どうでもいい」かのように暴行、射殺される様子が、リアルな動画とともに拡散される時代になり、BLM運動は世界レベルで「歴史的な拡大」を見せています。

日系人の間にも広がり

私が暮らすロサンゼルス(カリフォルニア州)の日系人社会にもBLM運動は広がっています。一般的に高学歴・高収入で、社会的地位を築いているとされる日系人の間で、なぜなのでしょう。



カリフォルニア州北部ツールレークの日系人収容所

それは第二次世界大戦中、西海岸などに住む12万人の日系人や日本人が財産を没収され、「敵性外国人」として強制的に収容所に送られた歴史を持つからです。終戦後も1960年代までは住む場所を制限され、黒人らと居住圏をともにする中で問題意識を共有してきました。

それは第二次世界大戦中、西海岸などに住む12万人の日系人や日本人が財産を没収され、「敵性外国人」として強制的に収容所に送られた歴史を持つからです。終戦後も1960年代までは住む場所を制限され、黒人らと居住圏をともにする中で問題意識を共有してきました。

アジア系へのヘイトクライム

もちろん、こうした歴史を共有していない戦後移民や駐在員家族は、BLM運動をすぐに「自分たちの運動」とすることは難しいでしょう。しかし少しずつ「変化の兆し」が見えます。それは、新型コロナウイルスを「中国ウイルス」と呼ぶなど、**トランプ大統領が中国をスケープゴートにするたび、アジア系へのヘイトクライムが増えている**からです。ここでは日本人も「国に帰れ」「コロナはおまえたちのせいだ」「日本のものを売るな」といった暴言にさらされ、人種差別がリアルな現状になっているのです。

「沈黙が裏切りになる時が来る」はキング牧師が説き、大坂さんがツイッターで引用した言葉です。
(毎日新聞経済プレミア 9/11)